

====内田研究室案内====

教員名：内田 由紀子 准教授（こころの未来研究センター所属）

問い合わせ先：uchida.yukiko.6m@kyoto-u.ac.jp（内田由紀子）

研究の概要：

文化心理学の研究室です。手法としては社会心理学（実験・調査系）です。国際比較研究や、日本国内の漁村や農村へのフィールド調査などを実施しています。国際共同研究が主なため、研究室には留学生（人間環所属の大学院生）や海外からのポスドクや短期滞在の研究者が多数おり、現在ゼミは主に英語で行っております。

大学院について：

内田准教授の所属は京都大学こころの未来研究センターですが、協力教員として京都大学大学院人間・環境学研究科において院生指導を行っており、修士課程・博士課程の学生の指導にあたっています。大学院入試は人間・環境学研究科で受験して頂きます。学生の所属も人間・環境学研究科（認知・行動科学講座）となります。

修士課程のみでの卒業について：

内田研究室では、地域コミュニティや会社・組織における風土・文化やそれらと幸福感・メンタルヘルス等との関わりといった、実社会での問題に対して、文化・社会心理学の理論・手法を用いてアプローチすることも行っています。修士課程でこのようなプロジェクトに関わりながら、文化・社会心理学の理論や手法を学び、卒業後実社会でそのスキルを生かすという進路を考えておられる方も歓迎します。

現在の構成メンバー：14名（2017年6月現在）

教員 1名

ポスドク 2名

博士課程学生 7名（うち国費留学生3名・国内留学生1名）

修士課程学生 1名

研究生 1名

リサーチアシスタント 2名

学部生 1名

最近のテーマ：

幸福感などの感情、社会生態学的環境や文化と心の関係、文化変容
社会構造（社会階層）と認知、文化的認知スタイルの学習プロセス
企業文化・地域文化 など

募集予定学生：

- ・大学院の入試の専門科目を心理学で受験できる学生。大学院入学後の研究の知識として必須であるため、社会心理学分野の勉強をしていることがベストです。
- ・文化心理学はコラボレーションが基本です（特に国際共同研究）。いろいろな人とコミュニケーションしてみようというモチベーションをもつ学生を希望します。
- ・英語力は入学後に身につけてもらえれば大丈夫です。しかし現状においても英語文献を読むことやコミュニケーションを英語で行うことへの向上心がある学生を希望します。
- ・実験・調査手法を用いる際に統計分析は必須です。心理統計法の基礎知識がある、または入学後学ぶ意欲がある学生を希望します。
- ・内田研究室でどのような研究が行われているのかを調べ、自らがどのようなテーマで研究を行ってみたいかを考えたうえで、受験までに一度下記フォームにてご連絡ください。

<http://goo.gl/forms/mBOUGcrVpZ>

参考 URL

http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/staff/2008/03/Yukiko_UCHIDA.html

http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/en/cultureko_net/index.html

大学院入試の参考文献

*このリストは、ここから出題されることを保証するものではありません。

文化心理学の基礎と理論

書籍

「社会心理学概論」 北村英哉・内田由紀子 ナカニシヤ出版

「わたしから社会へ広がる心理学」 金政祐司・石盛真徳 北樹出版

「社会心理学社会心理学—社会で生きる人のいとなみを探る（いちばんはじめに読む心理学の本）」 遠藤由美 ミネルヴァ書房

「社会心理学」池田謙一他 有斐閣

「社会心理学キーワード」 山岸俊男 有斐閣

「文化心理学」上下 増田貴彦・山岸俊男 培風感

「心理学研究法 5 社会」 岡隆・大山正 誠信書房

“Cultural Psychology” Steven J Heine

“Culture of Honor” Nisbett & Cohen

論文（本当は読んでもらいたいものはもっとたくさんありますので、上記の文化心理学の本で引用されているものなどを参照してください）

- ・ Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and

motivation. *Psychological review*, 98, 224-253

- ・ Kitayama, S., Park, H., Sevincer, A. T., Karasawa, M., & Uskul, A. K. (2009). A cultural task analysis of implicit independence: comparing North America, Western Europe, and East Asia. *Journal of personality and social psychology*, 97, 236-255
- ・ Uskul, A. K., Kitayama, S., & Nisbett, R. E. (2008). Ecocultural basis of cognition: Farmers and fishermen are more holistic than herders. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 105, 8552-8556.
- ・ Kitayama, S., Ishii, K., Imada, T., Takemura, K., & Ramaswamy, J. (2006). Voluntary settlement and the spirit of independence: Evidence from Japan's "northern frontier". *Journal of personality and social psychology*, 91, 369-384
- ・ Kitayama, S., Duffy, S., Kawamura, T., & Larsen, J. T. (2003). Perceiving an object and its context in different cultures A cultural look at new look. *Psychological Science*, 14, 201-206.
- ・ Uchida, Y., Kitayama, S., Mesquita, B., Reyes, J. A. S., & Morling, B. (2008). Is perceived emotional support beneficial? Well-being and health in independent and interdependent cultures. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 34, 741-754.
- ・ Uchida, Y., & Kitayama, S. (2009). Happiness and unhappiness in east and west: themes and variations. *Emotion*, 9, 441-456.
- ・ Uchida, Y., & Ogihara, Y. (2012). Personal or interpersonal construal of happiness: A cultural psychological perspective. *International Journal of Wellbeing*, 2, 354-369.
- ・ Norasakkunkit, V., & Uchida, Y. (2011). Psychological consequences of postindustrial anomie on self and motivation among Japanese youth. *Journal of Social Issues* 67, 774-786.

その他

統計は、t-test, 相関、カイ 2 乗検定などはもちろんのこと、ANOVA, 重回帰分析、因子分析（が、それぞれどういうときに使って、どのようなリサーチデザインに対応しているのか）を理解できるようにしてください。

Advanced (心理学研究法の教科書)

Research Design Explained Mitchell & Jolley